

せたがや 町総連だより

第 33 号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林4-31-9
ポライト第2ビル202
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 後藤 正三
編集 情報誌編集委員 会有
編集委員長 堀池

東日本大震災の被災者支援のため

「義援金」を寄贈しました

東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

ました。

この義援金は、世田谷区から被災県(岩手・宮城・福島・茨城・栃木・千葉)に届けられ、市町村を通じて被災した方々に届けられます。

「東日本大震災復興支援」(スローガン:心ひとつにして)世田谷区とともに乗り越えましょう)として、被災地の復旧・復興支援のため、新たに「東日本大震災復興支援金」の募集を始めました。

また、6月1日から世田谷区では、保坂展人区長が

この支援金は、被災地の岩手・宮城・福島の各県及び関係自治体に寄贈され、子ども・高齢者・障害者等の災害弱者支援や原発事故の被災地支援等の財源として活用されます。

り、町会・自治会や地区の町会連合会においても、早くから義援金の募集が行われてきました。

被災者の皆様には、まだまだ普通の生活に戻るためには時間がかかると思われるので、引き続きご協力をお願いいたします。

世田谷区町会総連合会といたしましたが、世田谷区の「東北・関東大震災義援金」に50万円を寄贈いたし

世田谷区町会総連合会

ホームページの活用

世田谷区町会総連合会では平成22年4月にホームページを開設しましたが、各町会・自治会が活用できるようにミニホームページ

(町会・自治会の案内・イベント・行事の周知、町会広報等)を載せられるようになっております。

がこのミニホームページを利用・活用しておりますが、件数的にはそれほど多くありません。22年度にミニホームページ

目

「義援金」を寄贈しました	1
町総連ホームページ関連	1
地域情報	
碓氷地域 千歳台廻沢町会活動	3
世田谷地域	
「災害時高齢者助け合いネットワーク」から始まった 災害に強い街づくりへの挑戦	4
北沢地域 今、どこをめざすのか	5

次

玉川地域 東日本大震災さくらまつりに代えて	6
烏山地域 「震災時の活動支援に関する覚書」	7
「災害時要援護者支援活動」への取り組み	8
からすやま下町まつり	8
町総連情報誌編集委員会名簿	10
町会長交替のお知らせ	10
理事交替のお知らせ	10
編集後記	10

(ご自宅のパソコンがインターネットとつながっている場合、世田谷区町会総連合会のホームページを開き、町会・自治会一覧の中から右記の町会・自治会をクリックしますとミニホームページの内容(活動情報)が閲覧できます。)

地域別	町会・自治会名
世田谷地域	若林町会
	三軒茶屋町会
	世田谷上町町会
	宮坂1・2丁目町会
	野沢3丁目町会
	野沢4丁目自治会
北沢地域	赤堤1丁目町会
	桜上水5丁目自治会
玉川地域	九品仏自治会
	奥沢中和会
	等々力6丁目町会
砧地域	喜多見北部町会

ミニホームページを利用している町会・自治会
 シ作成の説明会を開催いたしました。さらに、ミニホームページを活用される町会・自治会が増えるようご協力をお願いいたします。

町会・自治会の紹介コーナー(ミニホームページ)の掲載にご協力ください

掲載する内容は、どんな簡単なものでも結構です。また、最初は、簡単な内容を載せておき、将来的に少しずつ情報を充実させていくことも可能ですので、皆さんの町会・自治会でもぜひ原稿をお寄せください。

実際のミニホームページの画面

(若林町会)

世田谷の町会・自治会

世田谷区町会総連合会について
 町会・自治会は、居住している土地を単位としてつながり合い、互いに助け合う組織です。世田谷区では、町会・自治会の連合会(世田谷区町会総連合会)が組織されており、平成22年7月現在、197団体が増加しています。
 →もっと詳しく

住んでいる地域の町会・自治会はどこ?

若林町会

住所: 若林1, 若林2, 若林3, 若林4, 若林5丁目

若林町会への加入申し込みはこちらから

若林町会のあらまし

私たちの町(若林)は、園林7号道路を境で東側、三軒茶屋寄り(1・2丁目、西側は三軒茶屋寄り)3・4・5丁目といった町域になっています。若林町会では、これからのまちづくりを住民のニーズに応えながら、子どもから高齢者までが安心して住むことができ、そして安全で健康的で、人に優しい、暮らしのあるまちにしていこうというまちづくりをモットーにしています。

世田谷区若林町会のホームページ

役員会長のメッセージ

私たち若林町会では、これからのまちづくりを住民のニーズにこたえながら、子どもから高齢者までが安心して住むことができ、そして安全で健康的で、人に優しい、暮らしのあるまちにしていこうというまちづくりをモットーにしています。

主な活動

- 防災活動
防災フェアの開催(若林町会総合防災訓練)/各1日ごとの出だご防災教室の開催/災害時防災ネットワーク作り
- 高齢者福祉
若林町会員の健康/高齢者の健康づくり/安心すこやかセンターへの協力
- 地域伝統文化行事の継承
歴史・写真・映像の発信、保存紹介/協議会の実施/秋の陣守三社祭への協力/夏休み恒例の大会の開催/日本建築学会への協賛・協力/地域環境整備・緑化

【掲載までの流れ】

① 原稿の作成

原稿の様式や内容は、特に決まりはありませんが、「町会のなりたちや歴史」「会長のメッセージ」「加入の呼びかけ」「活動内容」などを入れると分かりやすいかと思われます。原稿は、電子データでも手書きしたものでも結構ですが、写真については、電子データの方がホームページ上でより鮮明に表示されます。



② 原稿の提出

お近くの出張所・まちづくりセンターへ直接ご提出ください。なお、電子データで作成いただいた場合は、あらかじめ出張所・まちづくりセンターへ電話連絡のうえ、電子メールで提出いただくことも可能です。



③ 校正

町会総連合会で、いただいた原稿をホームページへ反映し、ホームページの表示画面をご確認いただきます。



④ 公開

校正の結果を反映した後、ホームページに公開されます。

砧地域

千歳台廻沢町会活動

千歳台廻沢町会会長 吉田 仁

東日本大震災で御不幸に逢われた方々に深い哀悼の祈りを捧げます。又被災された皆様、御家族の方々に心から御見舞い申し上げます。

当町会は4月初旬恒例の「花まつり」を自粛してその費用を被災地へ日本赤十字社を通して、義援金として送りました。なお6月の実施予定のバス旅行も中止しました。これらは、町会の方々には回覧板や町会のミニコミ紙で御報告いたしました。

ます。

また古着古布の回収は年2回5月と10月です。今年の春はこれと同時に小田急線千歳船橋駅前の広場を借りて「ノミの市」も開き、多数の団体(船橋エリア内)の申し込みがありました。

5月には、語呂合わせでごみゼロデーに町内3ヶ所を集積場にして清掃します。これは船橋地区全体が行います。また古着古布の回収は年2回5月と10月です。今年の春はこれと同時に小田急線千歳船橋駅前の広場を借りて「ノミの市」も開き、多数の団体(船橋エリア内)の申し込みがありました。

園2、3ヶ所を実施、10日間の終了日には廻沢町会のラベルを貼った袋菓子が配られます。

8月は親子バス見学、行き先は、毎年中央防波堤埋め立て処分場見学と今年はガスの科学館の見学を予定しています。

11月は恒例の船橋の町会自治会が参加しての「ふなばしふれあい祭り」が希望ヶ丘公園全体を使用して開催されます。警察署、消防署、清掃事務所の協力もあり公園内の円型広場などでは乗馬試乗や展示されたパトカーに小さな子ども達が乗ったり、長野県松代町からの野菜の販売、野球場

広場の舞台では、歌や踊り等々の演技がありNPOやJAの協力で盛り上がります。温水プールの地下には管内小学校からエコポスターを借りて展示します。

防災訓練は大体11月に小学校の校庭を借りて実施しています。町会内にある消防署と合同で行う場合もあります。お話を聞いたり梯子はしの試乗や煙中訓練・起震車の体験など、小学校の校庭は広いので大いに動き回れるのではないのでしょうか。また昼はアルファ米を使つて町会好評のカレーを千歳台小おやじの会・めばえのお母さん達に作つて頂き昼食にします。この訓練が終ると年末には町内をパトロールして歳末の安全を図っています。

1月に入ると地域に開かれた千歳台小学校の行事の一つとして町会に1年生を対象とした授業があり、喜ばれています。老人会の方は昔のあそびを子どもと一緒にしています。昼食は学校給食を頂き、子ども達との会話も楽しいものです。

大きな行事はつつがなく終り1年間の早いこと。幸いなことに町内の団体である青壮年会、女性会、学校のおやじの会等の協力があつて次へ進むことが出来るのだと思います。

小学校の運動会がありふとこんなことを思いました。「低学年の玉入れは大きな玉ころがしの玉となつて千歳台廻沢町会を支え構成しているのだ」ということを...

小学校の運動会がありふとこんなことを思いました。「低学年の玉入れは大きな玉ころがしの玉となつて千歳台廻沢町会を支え構成しているのだ」ということを...

世田谷地域

「災害時高齢者助け合いネットワーク」から始まった

災害に強い街づくりへの挑戦

桜丘一丁目町会会長 村松 國昭

今回の大震災で、私達が改めて学び気づかされたもののひとつは、地域の「絆」の大切さです。被災地の中でも、日頃から災害に備え

て町会または地域ぐるみで避難訓練を重ね、子供達への災害教育を徹底していた地域では、多くの人命が救われたといわれています。

発災対応型防災訓練の実施、そして消防用スタンドパイプの常備など、ソフトとハードの両面から防災対策を行っています。

桜丘一丁目独自の「災害時高齢者助け合いネットワーク」

力、そして多くの住民の協力で生まれました。このシステムは高齢者を中心とする要援護者、その人達を支えるサポート員から構成されています。今回の大震災でもサポート員が要援護者の安否確認を行うなど、一定の効果が見られました。



発災対応型防災訓練(2)



発災対応型防災訓練(1)

日頃から地域の「課題」を住民全てが共有し、対策を施し、常に検証する。有事に強い地域はこうした姿勢から生まれるのだということ、被災地の人達は身をもって教えてくれました。

桜丘一丁目町会 は以前から「災害に強い街」を目指して、「災害時高齢者助け合いネットワーク」の構築、

桜丘一丁目独自の「災害時高齢者助け合いネットワーク」はこんな思いつきから、当時の大木会長をはじめとする町会役員の努

当システムは要援護者の情報公開、サポート員によるマンツーマンの対応などとあわせ、町会員でもある東京農業大学と提携を結び、キャンパス内に合宿所がある柔道部員と相撲部員がサポート員として活動しているのが大きな特徴です。サポート員の確保、より緻密な体制づくりなど課題は山積ですが、地域の「絆」を結ぶインフラとしてさらに充実させていきます。

いち早く発災対応型防災訓練を実施
従来の小学校を会場とした防災訓練に対して、もつと実際の災害に対応できる訓練を望んでいた町会は、おりしも世田谷消防署が計画していた「発災対応型防災訓練」にわが意を得たり。「災害時高齢者助け合いネットワーク」の実地訓練も兼ねて、世田谷消防署官

北沢地域

今、どうをぬむのが

代田自治会防災部長 重田 朗子

坂出張所及び消防団(第16分団)等の協力のもとに大掛かりな訓練を実施しました。自分たちが住む街で展開された臨場感あふれる訓練は、住民の防災意識を高めるうえで大きな成果があっただけでなく、桜丘

一丁目町会と世田谷消防署、消防団、世田谷区、小・中学校、東京農業大学、高齢者施設、そして地元企業等との「防災ネットワーク」の重要性を教えてくださいました。

自分たちの街は、自分たちで守る。大災害が発生した場合、住民の救出、避難所の立ち上げ等、当初は多くの課題に自分たち自身で立ち向かわなければなりません。そのためは、住民一人ひと

りが日頃から、自分たちの街は、自分たちで守る。気概を持つことが重要だと思います。桜丘一丁目町会では役員以外の若い人たちにも防災を担ってもらうために、「防災専任チーム」の結成

を計画しています。今後、防災対応型防災訓練を契機に設置を進める消防用スタンドパイプを使った消火訓練等の防災活動を通して、住民の防災意識を高めると同時に、新たな「絆」づくりを目指します。

「未曾有」「想定外」これ等の言葉がこれ程、身近になることがあるとは…

今年の春3月のあの日以来、余りにも多く、そして

様々な情報に衝撃を受け翻弄されながらの毎日に、代田自治会の防災部は、どこをどうめざせばいいのか考

える中で、改めて見えてきた事がありました。自治会内には各部、また、地域の様々な組織(民生委員児童委員協議会・社会福祉協議会・日赤・小中学校・

商店会・あんしんすこやかセンター・まちづくりセンター・消防署・警察署等々)があります。このように多

くあるつながりを大事にし、活用しあいながら考え、行動していこうと思うのです。

これまで、代田自治会防

災部として、災害時の「自助・共助・公助」のうち、まずは「自助」からスタートし

ようと、知識・技術の定着・向上を考え、各人が情報はどう活かして、自分と家族の生命を守り安全を確保す

るのか、訓練や講習を繰り返しながら学んできました。

しかし、今後は、この学びを継続することは勿論で

すが、もう一歩踏み出して、「共助」の力を形成していく事も大切なのではないかと感じるのです。

その為には、防災部の活

動とか自治会の活動という枠組にとらわれない「地域力」を育てていく事が必要だと考えます。

一口に地域といっても、そこには、老若男女、様々

な方々が、それぞれの暮らしを営み、或いは、仕事場として学びの場として通ってきております。

このように、多様な価値観や個性が、やわらかに、ゆるやかに結び合い、気軽にふれあえ、思いやる心を

持ち、いざという時には力強く支え合える、「近所つき合い」をリニューアルして

いけたなら、「共助」の確立につながるのではないかと思います。

「隣は何をする人ぞ」では

なく、「向う三軒両隣」のやさしさを、今、この時代にふさわしい形で修復し作りあげていくこと、この思いの

第一歩を、どこへ、どのように踏み出していきたいでしょうか。まずは「あいさつ」をして、そして「顔見知り」になる。

もう一度、ここから始めてみるというのは如何でしょう。

この基本を忘れず、また、地域の根っこに直結する組織としての自負・自覚を持ち、自治会の活動に多くの

方々のご参加を頂けると

なご一層、努めていこうと思います。

最後になりましたが、この度の大震災で被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

玉川地域

東日本大震災 さくらまつりに代えて

桜新町町会 高橋 秀樹

昭和26年4月1日、我が桜新町商店街振興組合は発足しました。今から60年ほ

ど前のことです。

当商店街では、春の「さくらまつり」と9月に青森

「つり」を毎年欠かすことな

く実行してきました。

祭りは、花の開花予想に

従って、地元に住む水前寺清子さんや、やくみつるさんなどの協力もいただき実施しています。

市の協力による「ねぶたまつり」を町の2大イベントと位置付け実施しています。

駅前通りの八重桜は、ごく普通に植えられている桜

(染井吉野)などに比べると、開花の時期が一週間ほど遅く、花自体も華やかです。

旧大山街道である駅前通りに八重桜が植えこまれたのは、新

玉川線(現在の田園都市線)が開通した3年後の昭和55年の春

3月でした。その桜並木がしっかり根付いた昭和62年から、車

の通行を遮断しての「さくらま

た。震災当日の揺れはさまざま

く、さすがにその日は早々の解散となりましたが、その後、世間の自粛ムードの中で、委員会

は最終段階まで準備していた

「さくらまつり」を例年通りに実施すべきかどうか、真剣な議論を繰り返しました。

幸い私たちの町には大きな被害はありま

せんでした。だからこそ、この自粛ムードの中でも、日常を元気に過ごし、それ

において経済を活発に動か

しながら、支援をしていくうではないか。私たち委員会はその結論づけました。

紆余曲折はありましたが、

名称を「さくらまつり」から「東日本大震災復興支援

イベント」と変更し、チャ

リティイベントとして実行することで落ち着いたのです。

また、それに加えて、単

にチャリティイベントとして終わらせるのではなく、もし、この町に災害があつた場合どのようにしたらよいか? 「防犯・防災、私にできること、町のみ



交通安全パレード



トークショー

烏山地域

『震災時の活動支援に関する覚書』

日本女子体育大学と烏山地区町会・自治会連合会の協定

烏山下町会会長 高橋 和夫

学校法人 二階堂学園日本女子体育大学(学長 高橋和之)と、烏山地区町会・自治会連合会・23団体(会長 高橋和夫・烏山下町会会長)では、東京消防庁成城消防署烏山出張所長(谷山所長)立会いのもと、平

成23年2月22日に、日本女子体育大学学長室にて、「覚書」調印式が行われました。当日に至るまでの経緯については、平成22年9月に大学より地域貢献として、協力活動の相談を請け双方

の審議の結果、平成23年2月1日に学長と連合会長の正式面談を行い、題記の「覚書」を作成し調印となりました。協定内容の概要について 大地震(震度6弱以上)が

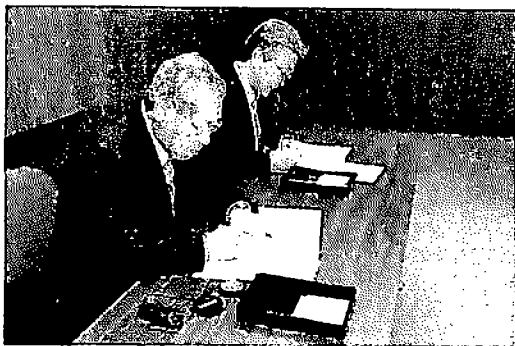
なでできること」をテーマに掲げ、町の住人の皆さんに、災害に遭遇した場合の対処方法を考えて頂ける場にしようと思いました。しかし、強い余震の続く中、車の通行規制など本当に実現できるのかどうか?心配していた警察、消防の協力については、イベントの趣旨を説明すると、すぐさま快諾して頂き、その上、主旨に賛同した玉川警

察署からは「震災における事故・防犯対策」、玉川消防署からは「大震災に挑む」というテーマによる講演まで実施していただきました。こうして祭りは、チャリテイイベントと変わり、世田谷区、警察、消防、町会などの協力を得ながら、印刷段階にまであったポスターなども含めてすべて「ゼロ」からの再出発となりました。

例年、ミニライブを行っていた水前寺さんには、やくさんとのトークショーと形を変え、その中で「365歩のマーチ」など元氣の出るような数曲を披露して頂くことにより、復興の支援ムードが大いに高まりました。歌の力は偉大でした。復興支援の募金活動は、サッカーの北澤豪さん、長谷川町子美術館からぬいぐるみの「あなごさん」など

が駆けつけて順調に資金が集まりました。そんなイベントでしたが、実行委員会においても、改めて経費を見直して余剰金を捻出し、そのすべてを義援金としました。あらゆることが自粛ムードの中で、私たちは、祭りを単純に中止とするのではなく、自分達で出来る支援の形を考え、復興支援イベントとして実施しました。

実行してよかったと思っています。9月には「ねぶたまつり」があります。来年も春になれば駅前通りの八重桜は満開となるでしょう。被災地の一日も早い復興を願いつつ、支援のあり方など考えながら、商店街・町会一丸となって、今後も祭りは盛大に行っていきたいと考えています。



発生した場合、意欲ある大
学生が、町会・自治会と協
力し、被災した地域住民へ

の支援活動を積極的に行う。
又、それぞれの防災訓練
などの防災活動の際にも協

力していく。
※詳細は、震災時の活動支
援に関する覚書による。

「災害時要援護者支援活動」への取組み

北烏山親和会会長 千葉 範子

今回の東日本大震災で亡
くなられた方々の、ご冥福
をお祈りすると共に、被災
された皆様へ心よりお見舞

い申し上げます。
そして故郷の、一日も早
い復興を願っております。
このような想像を越えた
災害を思うとき、

きか話し合ってきました。
今まで話し合う場はあつ
ても、具体的に行動するに
至ってはいませんでした。
そんな時、区から町会の
活動として、「災害時要援

護者の支援」に取り組む事
へのアプローチがあり、
さつそくその取り組みへの
具体的な行動に移りました。
この活動への取り組みは、
がんばって何かをしようと
いうのではなく、日頃から
回覧板を届ける気持を、皆
で共有しようという事です。
「こんにちは回覧板です」
「お元気ですか?」「変わ
りありませんか?」この一
声は何にもまして、お互い
の気持を届け合った事にな
ります。

それは町会での絆づくり
となり、防災力を高める
事にもなるでしょう。
「災害時要援護者支援」
は高齢者や障害を持った人
たちに、声かけ、手助けす
る事だけではなく、周りの
人たちと手を取り合い、助
け合う事に繋がる事だと思
います。
そして3月25日、北烏山
親和会は、区との間に「災
害時要援護者の支援」に関
する協定書を取り交わしま
した。



日頃より私たちが
の周りでも、安
否確認が出来な
い、もうすこし
早く手を差しの
べれば良かった
など、出来るて
だてを見過す事
のないようにし
たいものです。
防災への対応、
避難所生活にな
ったとき、町会
としてどのような
に動けば良いか、
どんな事をすべ

本年、3月11日に発生し
た東日本大震災のため、多
くの方々が被災されました。
心から、お見舞い申し上げます
ますとともに、一日も早い
復興を願っております。
烏山下町会では、昨年
の第1回に引き続き、平成23
年6月4日土曜日に、第2

からすやま下町まつり

しもぢょう

烏山下町会副会長 高橋 隆

回の「からすやま下町まつ
り」を開催しました。
4月中旬になっても、余
震が続き、原発問題は混迷
し、復興は一向に進まない
状態でした。こんな状況な
のに、「からすやま下町ま
つり」を開催してよいのか、
町会内でも議論になり、意

見がなかなかまとまりませ
んでした。
しかし、「下町まつり」
は、「まつり」と名前がつ
いていますが、もともと、
地震など災害のときに隣に
誰が住んでいるのかも分か
らないようでは困る、地域
の皆様のふれあいの場を設

けて、地域の絆を深めよう
と始めたものです。こんな
時こそ開催すべきだ、東京
に住む人がしゅんとしてい
ては、日本全体の元気がな
くなってしまふ。東京世田
谷から東北に元気を送ろう
と、意見がまとまり、今年
も開催することになりました。
そして、募金箱を設け

るとともに模擬店の収益な
どから、東北に義援金を送
ろうということになりました。
今年、例年に無く梅雨
入りが早く、天候が心配さ
れましたが、晴天で初夏を
思わせる陽気の中で、開催
することができました。気
温は高めなのですが、開催

場所の世田谷文学館の南側
の道路は、新緑に囲まれさ
わやかな風が吹き抜けてい
ました。昨年同様、やきそ
ば、わた飴などの模擬店、
割り箸鉄砲、わら細工など
のむかしの子ども遊び
コーナー、野菜の直売、ジャ
ズの演奏など盛りだくさん
の行事を行いました。

今年、芦花中学校のア
コースティック・ギター部
の皆さんが素晴らしい演奏
を聴かせてくれました。変
化に富んだ演出で、30分
出演時間があっという間に
過ぎてしまいました。また、
「劇団・世田谷かみしばい」
の皆さんが、世田谷の歴史
や昔話に関連した演劇のよ
うな紙芝居を見せてくださ
り、子どもたちが集まって
見入っていました。

いきましたが、若い世代も確
実に増加しているようです。
最近、畑などが宅地化され、
新しく移り住んだ方は、小
学生や幼稚園児ぐらいのお
子さんをお持ちの方が多
いでしょう。この「からす
やま下町まつり」が、古く
から住む人たちと新しくこ
の町を選んでくださった
方々との交流の場となれば
と期待しております。

当日は、昨年同様、世田
谷文学館が無料解放となり、
文学館の館内をお借りして、
郷土史家の下山照夫先生の
講演会、芦花小学校及び武
蔵丘小学校の生徒さんの防
災ポスター展、芦花中学校
の生徒さんの防災標語展、
烏山の今昔写真展などを行
いました。

千駄山町会、児ヶ谷会、
パークアベニュー自治会な
どの町会自治会、芦花公園
商店街振興組合、成城消防
団、成城交通安全協会、下
町睦会、あしか隊などの地
域の諸団体など多くの皆様
のご協力によって、今回も
開催することが出来ました。
この場をお借りしまして、
感謝申し上げますとともに、
来年もご協力をよろしくお
願います。また、新しい
団体の参加もお待ちしております。



下町まつり



綱引き風景

綱引きやヨーヨー釣りな
ど子どもさんの楽しめる行
事が多いせいもあるのだ
しょうが、この地域にこん
なに小さい子どもさんが
いるのかとびっくりしました。
地域の老齢化が心配されて

町会長交替のお知らせ

平成23年6月10日現在

烏山		砧	玉川				北沢				世田谷			地域																		
北烏山みむね管理組合	烏山北住宅自治会	船橋会	祖師谷第4自治会	駒沢町会	桜新町親和会	深沢三友会	深友会	馬事公苑前ハイム管理組合	九品仏自治会	奥沢中和会	玉川田園調布会	奥沢交和会	都営上水3丁目アパート自治会	赤堤2丁目町会	羽根木町会	代田4丁目町会	代田4丁目西町会	豪徳寺二丁目町会	豪徳寺一丁目山下自治会	桜丘町会	経堂南町会	太子堂5丁目町会	三宿北町会	三宿自治会	町会・自治会名							
甘利勝美目黒則子	山田政文柴田文吉	樋口昭彦金子裕司	一法師宏子渡辺康子	大西康夫古賀徳一	鍛冶谷佳子増田邦夫	小美野泰弘岩田玲子	佐藤四郎斎藤真	矢島光正福田公夫	横井時惟椿儀	三羽和彦太田健二	谷岡英夫秋山眞太郎	山内一夫三田松廣	阿部平四郎牛尾信重	横山昭夫長田敏明	石井泰	中山恒雄日高宏	塩谷良一原田正幸	三好和久高宗正記	淀川二美子中村榮助	河野稔齋藤友宏	野口佐久石原昇三	萩原一俊岡村良和	室谷美知子柳下忠男	飯塚捷子植松敬	新名ヤヨイ佐藤和郎	岡庭茂行太田登	磯田英子	山崎和則里吉阜月	牛木靖明並木雄三	清水武佐々木園男	新会長	前会長

理事交替のお知らせ

地区	新理事	前理事
池尻まちづくりセンター	落合町榮	
経堂出張所	川畑和子	太田登
梅丘まちづくりセンター	松江喜久夫	植松敬
松原まちづくりセンター	富永正義	池田紀明
松沢まちづくりセンター	河田恵量	佐々倉俊雄
奥沢まちづくりセンター	塩谷良一	原田正幸
九品仏まちづくりセンター	石井泰	
横山昭夫	長田敏明	
新川崇雄	椿	
菅田輝代志	太田健二	
杉田武信	高橋和夫	

◎町総連情報誌編集委員会名簿

平成23年5月現在

氏名	所属
會長 後藤正三	北沢3・4丁目西町会会長
委員長 堀池有	桜上水1丁目町会会長
副委員長 木村邦夫	玉川中町会会長
委員 堀江義之	若林町会総務部長
委員 鮎川郁男	弦巻町会計監査
" 池田紀明	松原5・6丁目自治会会長
" 吉崎義記	船橋葎根会会長
" 岡田正雄	喜多見北郡町会会長
" 高橋和夫	烏山下町会会長

編集後記

今年3月に東北・関東を襲った震災(東日本大震災)は、今までの震災と違い、津波による災害・原発事故と世界でも経験したことのない二重三重と被害が拡大した大災害となりました。被害に遭われた方々の中には、現在も仮設住宅にも住めない方々が多数おられます。まだまだ、本格的な復興・復興を望むことは難しいと思いますが、早く元の生活に戻られる事を切に願っております。いまだに余震が収まらない中、次の震災がいつくるかわかりません。皆様も、町会・自治会とも協力して震災対策に取り組んでいただくようお願いいたします。

編集委員より